

初年次教育としての「自立と体験 1」再履修 授業実施報告

南 愛*

1. はじめに

明星大学では、初年次教育「自立と体験 1」を 1 年前期の必修科目として、全学部全学科横断の 30 人程度の少人数クラスで実施している。この「自立と体験 1」は明星大学の教育目標「自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成」を受け、「明星大学に学ぶ学生としての自分を理解し、各自の理想や目的を明確にしていくこと」を教育目標とし、到達目標を「他者との関わりを通して自己理解を深め、明星大学で学ぶ自分自身を理解すること」としている。本稿では、初年次に何らかの事由により「自立と体験 1」に出席できず、再履修の対象となった学生の授業への取り組みや、授業実施内容を振り返りたい。

2. 授業概要

- (1) 授業クラス 前期 2 クラス（月曜日 5 限・火曜日 5 限）
後期 2 クラス（月曜日 5 限・火曜日 5 限） 計 4 クラス

(2) 単位取得状況

履修登録者のうち実際に授業に参加し続け、合格する学生は全体の約 6 割である。履修登録しながら全授業欠席する学生や初回の授業のみ出席し、その後一度も受講しない学生、途中でリタイアする学生も約 4 割いる。

	履修登録者	合格者	不合格者
前期（2 クラス）	59 名	34 名	25 名
後期（2 クラス）	10 名	8 名	2 名
計	69 名	42 名	27 名

(3) 学生について

対象者の内訳として、初年次に「自立と体験 1」の単位を取得できなかった学生と編入生として再履修クラスで初年次教育として受講する学生がいる。今年度は、編入生は前期 2 名が履修登録し、合格している。学生の特徴として、コミュニケーションに対して苦手意識を持つ学生が多いが、中にはコミュニケーションスキルが高い学生もいる。これは、学生生活とも関連しており、課外活動に身を置き、自分の居場所を持っている学生は、コミュニケーションスキルが高い場合が多い。コミュニケーションが苦手な学生も、当初は周囲と打ち解けることに時間がかかりながらも、グループ学習を通してのメンバー同士知り合い、安心した場として認識できると徐々に自ら発信しようという姿勢が見られた。また、受講生の共通点として、言われたことに対して素直に取り組むことができるが、物事を深く考えることができず目の前のことしか考えられない、集中力が欠ける、語彙力が少なく文章を書くことが苦手な学生が多く見られた。従って、これらの特徴を授業運営や授業内容に反映させながら進めていった。

* 教育学部 特任講師 明星教育センター

(4) 授業内容

「自立と体験1」のシラバス内容は、第1期「人と関わる」、第2期「人と関わる・学びのスタートを切る」、第3期「大学生活を見通す」という3ブロックに分けたものである。しかし、再履修対象学生が、2年生以上であることから、学生生活をより充実して過ごすためにどうするか、また、前述の通り受講生の特徴（対人スキルの向上や読む・書くなどのスタディスキル、そして将来の自分を見通す力をつける）を反映した授業内容に変更している。具体的には、「自立と体験1」の授業内容をベースに、「コミュニケーション」「スタディスキル」「キャリアデザイン」の3つの柱で行うこととし、明星教育センター内で検討を図りながら教員毎にカリキュラムを作成し、実施することとなった。

【授業内容実施例（前期月曜5限 南クラス）】

到達目標：他者との関わりを通して自己理解を深め、明星大学で学ぶ自分自身を理解する

読む、書くなどのスタディスキルを高め、自分の考えをまとめて表現できるようになる

回	項目	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらい・進め方自己紹介 【実習：印象ゲーム】
第2回	自己理解・他者理解	自己探求、他者理解・自己肯定感を高める 【実習：キャリアトラップ】
第3回	コミュニケーション①	双方向コミュニケーション 【実習：無言の集団作業】
第4回	コミュニケーション②	アクティブリスニング 【実習：聞かないこと・聴くこと】
第5回	コミュニケーション③	質問力を高める 【実習：質問ゲーム・他者紹介】
第6回	コミュニケーション④	コンセンサス実習 【実習：危機からの脱出】
第7回	コミュニケーション⑤	チームとしての活動 【実習：歓迎企画を立てよう】
第8回	新聞を読む①	新聞記事をもとに自分の考えをまとめ表現する
第9回	新聞を読む②	新聞記事をもとに、賛成・反対の立場に分かれて意見を述べ合う
第10回	新聞を読む③	情報を集めて新聞記事を作成し、発表する
第11回	キャリアデザイン①	キャリアデザイン（過去・現在・未来） 【実習：今までできたこととこれからやってみたいこと】
第12回	キャリアデザイン②	卒業生から学ぶ 【実習：卒業生パズル・卒業生インタビュー】
第13回	キャリアデザイン③	自分と仕事について考える（興味・能力・価値観） 【実習：ジョブマップ・バリューカード】
第14回	キャリアデザイン④	これからの大学生活を描く 【実習：大学生活デザインシート】
第15回	授業まとめ	個人スピーチ「授業を通して学んだこと」

(5) 実施方法

毎回授業は、5～6人組のグループに分け、互いに学び合うことができる協同学習（グループ学習）で取り組んでいる。90分の授業構成は基本的に最初の導入15分間を目的やねらいの確認とグループ学習へ入る前のアイスブレイクとして活用し、各回テーマとなる体験学習を55分、最後の振り返りを20分としている。授業中は、SA（学生アシスタント）がクラスに1人つき、各グループ活動を支援する役割を果たしている。教材は、「自立と体験1」で使用するポートフォリオとは別に各回授業で使用する補助シートを作成した。配布物を自己管理することが苦手な

学生が多いことから、ポートフォリオやシート類を管理するファイルを配布した。

(6) 授業工夫

①場づくり

人と話すことに対して苦手意識を持った学生や自己肯定感が低く、自分をうまく表現できない学生が多いことから、グループ学習を通して人と何かを行うことの楽しさを知ることからスタートした。

また、改まった環境でいきなり話し合うのではなく、カードやシート等のツールを用い、ペアワークからグループへと徐々に互いを知り合い、関係性が図れるような場づくりに努めた。グループは、後半の数回以外は、毎回メンバーを変え、段階的に初対面の人ともコミュニケーションを図れるような機会を増やすと同時に、導入時にアイスブレイクを行い、自然な会話からスタートできるよう進めていった。

②個々への働きかけ

単位を落とした理由は、様々である。例えば1年次に生活サイクルに乱れが生じ、遅刻が多くなってしまったケースや上手くグループに溶け込むことができず遠ざかってしまったケースなどが挙げられる。そこでなぜ、単位を落としてしまったのかを初期の授業で各教員がアンケートを取り、事情を把握することから始めた。授業においては、テーマ毎に見える個々の関心や興味のあるキーワードを幾つか拾い上げ、後半のキャリアデザインの授業で、自分の興味・関心が社会や将来にどのように繋がっていくか具体的にイメージがつくよう講義の中で取り上げ進めていった。また、毎回振り返りシートを回収し、教員からのコメントを返すことで、個々の課題や改善点を互いに確認し、授業の中で徐々に達成できるような働きかけを意識した。

③学生同士の肯定的なアプローチ

第2回の授業では、自己の短所の捉え方について視点を変えるという実習を行った。進め方は、次の通り。①シートに自分の短所を書かせてから、そのシートを一度机の上からしまう。②グループ全員で机におかれたマイナス表現が書かれたカード（例：頑固、自己中心的）数十枚をメンバー全員で肯定的な表現に3パターン直していく。③その作業が終わると、再度自分の短所について学生自身から事例を含めて話をさせ、他のメンバーから肯定的な表現に直して伝え合うというものである（教材：キャリアトランプを活用）。また、第14回の授業では、グループ学習で見たメンバーの特徴を日常にある部品の良い役割に例え、お互いに事例を交えながらフィードバックし合う実習を行った。

他者から異なる視点や肯定的なメッセージをもらうことで自分では気がつかない特徴や考え方に気づくことができ、自分についてプラスのイメージを持つ学生も見られた。

3. 学生によるアンケート

今回、私が担当する授業では、初期段階に「単位を取れなかった理由」と最終回には「授業を終えての感想」についてアンケートを実施した。その結果は以下の通りである。

(1) 単位をとれなかった理由（対象：前期月曜日5限南クラス 出席者16名）

- ・朝、眠たくて起きられなかった（複数回答）
- ・なんとなくさぼってしまった（複数回答）
- ・欠席しがちで、グループに馴染めずどんどん行きづらくなった（複数回答）
- ・授業には出席したが、課題を提出しなかった
- ・受験が終わって、夜ゲームで遊ぶなど生活パターンが不規則になってしまい、学校へ行かなくなった

(2) 授業を終えての感想 (対象：前月曜日5限南クラス 出席者16名)

- ・将来のことを色々考えるきっかけになり、もっと考えなくてはいけないと思った。楽しい授業だった。
- ・この授業のお蔭で人見知りが出た。また、将来について考えるきっかけになった。
- ・目標を立て、それに向けて頑張ることは素晴らしいことだと思った。なかなか自分から話すことができなかったが、この授業で初めて話す人への話し方やコミュニケーションを学べた。
- ・将来の夢のためにどんな努力が必要か知ることができ、自分について改めて見つめることができた。
- ・人と話すことの大切さを学び、人と話せるようになった。役に立つ授業だった。
- ・「考える」ということを学んだ。色々な人と接することができ、楽しかった。
- ・楽しみながらコミュニケーション力を深めることができた。他人とスムーズにコミュニケーションを取れるようになり、人前で話すときも聴き手を意識するようになった。
- ・今の自分を見つめなおし、これからどうすればいいか、自分が何をすべきか考えられた。
- ・コミュニケーション力が身についたと思う。楽しい授業だった。
- ・自分のことをゆっくり考えることができ、これから変わろうと思えた。
- ・基礎が大事だということを学べた。少し視野が広がった気がする。
- ・この授業で言葉の大切さを学び、人の話を聞くようになった。楽しかったので出席してよかった。
- ・自分が話すときに気をつけるポイントを学べた。自分の成長としては、積極的に行動できるようになったこと。授業の中で、これからの大学生活で役立つ話し合いができたと思う。
- ・人見知りが治った。
- ・卒業後のことを考えていなかったけど考えるきっかけになった。コミュニケーションの大切さを学び、話したことがない人とも話せるようになった。

4. まとめと課題

今回、再履修の授業を担当し、改めて誰しも意欲的に学ぶ素地を持ち、自己成長していく力があることを強く実感した。当初は、自発的に学ぶという意識に到達するまで至らないケースも多く見受けられたが、学生が学びのどの箇所で躓いているのかを見ながら支援していくことで自信をつけ、徐々に前向きに学ぶ姿勢が芽生えてきたことは確かである。本来大学は自発的に学ぶ場であり、教員から手取り足取り教える必要はない。しかし、学生によっては、コミュニケーションやスタディスキルの習得について、やり方自体が分からない、今まで経験してこなかったために苦手意識を持っているというケースも多い。回数を重ねる度に少しずつスキルが積みあがっていき、学生自身が成長を実感できるような段階的かつ繰り返して学びを反復させていくような授業設計が必要だと考える。自分の成長する力を認識し、自信を持つことで初めて今の自分ではなく将来の自分にも目を向けることが可能となり、これからの大学生活や将来どうなっていきたいかという視点へと繋がるからである。

今後の課題としては、スタディスキルの「書く力」の強化が挙げられる。自分の考えを言葉で表現することは慣れてきたものの、それを言語化し文章に書く段階になると、文章構成や表現力の部分でまだ課題が残る。授業の中で、論理的な文章の書き方について実施しているが、基本的なレポートの書き方なども含めて、丁寧な指導を行う必要があると考える。また、履修登録しながら途中でリタイアする学生を少なくするための取り組みも考えていかなければならない。初期の授業でグループでの体験学習を通して人と学び合う楽しさを体感し、次回の授業へ期待感を持って継続的に参加できるような授業工夫や仕組みを明星教育センター全体で考えていきたい。